



地震のひなん場所はどんな所がいの

近くて広くて、ひなんするときも安全な場所

大きな地震が起こったときに、家がこわれたり、まわりで火事が起こったりしたときには、ひなん場所へひなんしなければなりません。

ひなん場所は、子どもやお年寄りが、むりをしないで歩いていけるきよりに、あることが大切です。町の中心から、300メートルぐらいはなれた所が、ちょうどよい場所になります。それに、まわりで火災が起こっても、じゅうぶんな広さがあって、近くに防火貯水そうや、プールなどがあると、安心していられます。

海の近くでは、津波がくる心配のない、高台が適しています。また、山の近くでは、がけくずれや、落石がない所です。

ひなん場所へいくまでの道は、道はばが広く、道のまわりに、木造の家が立てこんでいないことや、かん板やネオンなどが、落ちてくる危険がないことです。

広い公園・体育館・公民館など

ひなん場所として、よく利用されているのは、広い公園、市町村や学校の体育館、公民館などが多いようです。

市町村で、ひなん場所や、ひなんするときの道を決めてあるときは、ふだんから、ひなん場所まで実際に歩いてみて、いざというときあわてずに、すばやくひなんができるように、心がけておきます。(監修・国司 真)

